
アムステルスオンライン

恭啓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アムステルスオンライン

【Nコード】

N9197Y

【作者名】

恭壺

【あらすじ】

世界中で大人気のMMOオンラインゲーム<アムステルス>！ユーザー数約29億人！俺が通っている県内の高校生のほとんどがしていて、自由動も高いし、職業も豊富！周りの皆は一緒に始めたので、キャラのレベルは結構同じだ。まあ、俺も同じぐらい。でもそれは二つのキャラの内の一つ。

もう一つのキャラは<アムステルス>で最強と言われている<小旗

御宛＞って言う八人だけのギルドの一人だ。

ブログ（前書き）

こんなオンラインゲームがあつたらな〜と思って書き始めました。

ブログが短いですが、お読みください m (_) m

更新は不定期ですが、なるべく早く更新したいと思っています。

プロローグ

三年ほど前からMMOオンラインゲーム＜アムステルス＞ってのが世界中で流行っている。たった一年でユーザー数は18億人を超えていて、今では29億人以上のユーザーがいる。

職業は豊富で、商人として国を回り商売するもよし、商人の旅を護衛する傭兵として活動するもよし。自由度が高く、結構なんでもかんでもできる。例えば農場とかも。

そんな世界中で大人気なくアムステルスは、俺が住んでる県内の高校のほとんどの生徒がしている。

ギルドって言う団体も作れて、生徒達でギルドを作っていて、同じ学校の生徒が固まっている。情報交換の場所だったり目的のモンスターを倒すため協力してくれる人を探す場所であったりする。時々ギルド同士での対戦もある。最近は近所の別の高校のギルドと対戦していたりする。

で、話しは変わるが、今日は始業式。

先程起きたばかりです。

あと30分で始業式が始まる。

坂を自転車で猛スピードで下っている。

新学期の朝

坂を自転車で下っていくと、アーケードで覆われた商店街が見えてきた。この商店街は多種様々な商品があって行けば、求める商品は大体ある。なので、ほぼ毎日朝から晩まで人が沢山いる。

樋口は右腕の腕時計を見た。

7時40分。

「・・・あと20分」

で、始業式が始まる。

すると、後ろの方から声がした。

「おー、樋口か？久しぶりだなー。」

声の主は同じ寮部屋の大輔だった。

「久しぶりー。で、大輔早速お願いがある。アレどーにかしてくれ」と言って商店街の人々を指差す。

「任せろ！」

大輔はスピードを上げて商店街に突っ込んだ。そして大声で「どいてくれー！」と叫ぶ。人々は大輔と樋口の制服姿を見るなり「遅刻をしそうなかawaiiそうな二人の学生」と認識して、道を開けてくれた。

商店街を通過すると樋口達の通っている、光陵大付属光陵高校が見えてきた。

敷地がとんでもなく広い。今では珍しくなった全寮制で、敷地が広いのを利用して男子寮と女子寮に大きく分けている。

二人は遅刻をしないように、時間にゆとりを持って登校をしている生徒達を追い抜いていった。その生徒の中の一人が樋口の自転車の荷台に座ってきた。

「荷物重い。校門まで乗せてくれ……」

荷台に座ってきたのは、遠藤で同じ寮部屋だ。

「OK……ってマジ重いんだけど……」

「教科書全部入れている」

「ふ、ふざけるな……捨ててしまえ」

「やなこった」

校門の近くになると、竹刀を片手に登校している生徒指導の先生が見えてきた。遠藤は荷台から下りて、バックだけ荷台に乗せて走った。

そして校門の所に行くと、生徒指導の先生に話しかけられた。

「先生達皆でお前達は絶対遅刻するって言ってたぞ」とニコニコし

ながら言うので、気持ち悪かった。

自転車小屋に自転車を入れて樋口達は寮部屋に向った。

「疲れたー！」

遠藤は部屋に入るなり大量の教科書が入っていた鞆を机の上に乗せて、ベットに寝転んだ。

「さっさと準備して教室行くぞ」

「あと何分……」

部屋の時計を見た。7時55分。あと5分で始業式が始まる。

「……午後って授業無いよな」

「無い。閑だ」

遠藤は机の中から生徒手帳を取り出し必要な物だけを鞆に入れて、部屋を出て行った。

「……俺たちも急ごう」

樋口と大輔は遠藤を追って寮の部屋を出て行った。

9月1日。晴天。二学期の始まりの朝の出来事だった。

新学期の朝（後書き）

続きは来週中に投稿します！

・・・できなかったらごめんなさい（つωT）

軍団襲来の噂（前書き）

自己満足度は70%です（・ω・）

次回作は・・・執筆中です（@^_^@）

軍団襲来の噂

始業式は校長の先生の話があつて樋口達二年生は新築の寮に移されて三人一組の部屋から個室になった。理由は一年生の寮を壊す為とかで、新しく寮を作つて二年生の寮に一年生を移動させて、新築の寮に二年生が入った

始業式が終わると樋口達は2－Bの教室へと戻った。担任の話が少しだけあるだけで解散となった。

皆はすぐには新しい寮には行かずアムステルスの事を話していた。学校内で友達同士や部活動の仲間でギルドを作っていて、午後から皆でモンスターを狩ったりするようだ。

「あー樋口。今日の夜は暇か？」

前の席で周りに女子がいるのに、サッカー部の服に着替えている大輔が言ってきた。大輔はアムステルスではヤムつて言う名前の槍使いだ。

「特に用事は無いけど・・・なんで？」

大輔は樋口の耳元までやってきて小さい声で言った。

「噂なんだけどね、ティアムって言う商業の盛んな街があるんだ。そこで軍団襲来があるらしい」

ここでモンスターについて説明しよう。

モンスターは普通1〜3体ぐらいで行動する。この場合リーダー的存在なモンスターはいない。

5〜10体で行動している場合はモンスターの中に色違いのモンスターがあり、そのモンスターは指揮をするモンスターである。キャプテンモンスターって言われている。

たまに將軍モンスターってのが出てきて、將軍モンスターは1000〜5000体のモンスターを引き連れて街を攻撃しに来るのだ。攻撃される街の中に居たユーザー達は、その街を守らなければならない。崩壊した場合その街はモンスターに占領される。

で、軍団襲来は將軍モンスターが何体かランダムに街を攻めてくるというシステムだ。

まあ、実際崩壊した街は俺が知ってる限りでは無いと思う。あったとしてもそこはもう更地。半壊程度の街はいくつかあるらしい。

「・・・確かな情報なのか？」

「おう。信頼できる人からの情報だ」

「わーかった。で、何時に集合だ？」

「そーだな。部活が5時に終わるから・・・5時半ぐらいにログインしといてくれ！」

言い終わると大輔は鞆を持って、21Bの教室を出て行った。そして部活動に行く者は教室を次々と出て行った。

◆PM5…35◆

いつもの三人一組の部屋から一人ぼっちと言う個室は寂しい。とりあえずパソコンの電源を入れてアムステルスを開始した。

親父もアムステルスはしていたが、2年ぐらい前に癌で無くなった。親父のはアムステルスで最強と言われている<小旗御宛>と言う八人だけのギルドの一人である。で、親父が亡くなる直前にIDとパスワードを教えられて時々だが、親父のキャラを使っている。魔法使いの最高位で、<大魔導師>でシユウって言う名前だ。国内ランキングでは3位で世界ランキングでは4位だ。

俺のはアルファスって言う剣士で有名でも無ければ何の実績も無い。国内ランキングも世界ランキングでも上位じゃない。まあ、そこそこ強いぐらい。

確か前ログアウトした場所からティアムの街まで10分ぐらいだったな。

☆アムステルスへようこそ☆

アルファスでログインすると画面中央に、ここ最近の出来事やニュースなどが出てきた。珍しいアイテムや鉱物が出てきた場所やギルド戦の結果など。

近くに馬を貸してお金を稼ぐユーザーが居たので、馬を借りてティアムの街へと急いだ。ティアムの街の近くには鉱山ダンジョンがあるので、ティアムは武器や防具を造る鍛冶職人のユーザーが多い。

借りた馬のおかげでティアムの街には数分で到着した。軍団襲撃の事を知っている人が多いのか、人が結構多い。それとも知らないでこの街に来ているのか。

まだヤムはログインしないようなので、もう少しで無くなる回復アイテムを買ったりして、武器や防具を見て回っていた。

☆ヤム　さんがログインしました☆

大輔がようやくログインしたようだ。と同時にアルファスのすぐ隣にヤムが登場する。友達機能の合流を使ったようだ。

友達機能とはまあ、気が合った人と友達になることだ。友達登録すれば、遠くに居ても話せるし友達の所へ行くことが出来る。

『すまん！延長練習で長引いた^^..』

「・・・毎日延長練習あるよな」

『延長練習はやりたくてやってるわけではいっpっ』

ヤムが新しい武器が欲しいって言ってきたので、ユーザー達が多く商店を開いている場所へ向かった。

商店とは自由に店を開ける機能で、アイテムや武器、防具を売れる。

商店を開いている間は移動ができないので、現実世界での仕事に行く間などで商店を開いて放置をするユーザーが多い。

「どーだ？良い武器あったか？」

『・・・無い』

「まあアレが終わったらじっくり見回ればいいさ。どっかで時間潰そうぜ」

アレとは軍団襲来の事で他のユーザーも見ていたので、あえて「アレ」と言った。

『オッケー』

只今の時刻6時50分。

あと10分もすれば軍団襲撃が始まるはずのだが……………。

ティアムの街にサーカス団が入ってきて街中でサーカスが始まった。

そしてティアムの街にある全ての商店でバーゲンセールが始まった。

ティアムの街は今日も平和です。

リザードマンの軍団襲来（前書き）

結構早めに更新できました。。。

次は早くて土曜日・・・遅くて来週・・・。

リザードマンの軍団襲来

◆PM 6..55◆

「・・・あと五分だな」

『そーだな』

ヤムとアルファスは路上パフォーマンズしているサーカス団を見ている。もちろん団員全てユーザーである。街を回りながら曲芸したりする。火の玉で綺麗な花を作ったり、水柱を立てて、そこへ氷の魔法で水を凍らせて凍った水柱を作ったりと、色々楽しませてくれる。

「・・・今バーゲン中だけど武器なんか買った？俺は回復薬買ったけど」

『炎属性のランスを買った』

と、聞きなれない音楽がなった。時間はちょうど7時だ。

★ティアムの街にリザードマンの軍団が接近中です★

★ティアムの街周辺が戦闘区域になりました。戦闘区域からは出ることはできません★

★アイテムと魔法などで他の街への移動ができなくなりました。ログアウトした場合戦闘区域の外でスタートします★

★リザードマン+1P リザードマン(K)+10p リザードマン(S)+100p 倒したら階級でポイントが貰えます。ポイント数でランキングが出されるので上位の方には報酬があります。参加した人達全員にも報酬があります★

★ティアムの町の中にいる人たちはリザードマンの軍団を倒してください。尚、最初の軍団到着は5分後です★

リザードマン(k)はキャプテンの事でリザードマン(S)は将軍の事だ。ポイントが多ければ多いほど報酬で良いのが貰える。

『ちょ、パレード中だぞお!』『団員も一応戦闘できます』『おお、頼りになる』『軍団パーティー募集!』『回復薬1ダース1000Gで売るよ!2ダース買ったら解毒薬5個おまけ!』『珍しいアイテムGETしたら高値で買い取るよ!』

賑やかだった街がさらに賑やかになった。軍団パーティー募集って言うコメントが左下のコメント欄をどんどん流していく。

『お前どーする?壁の外で戦う?それとも壁の上で大砲でも撃つか?』

アムステルスの世界の街は壁で囲まれて壁の上には大砲が置いてある。近くを通るモンスターや軍団襲来の際に便利な物である。今回は結構強いリザードマンだ。

「今の防具では、そう簡単に死なないから接近戦で戦うよ」

『じゃあ、どっかのパーティー入るか』

「うん」

街中でパーティーを募集している人達がいるが、条件付きだった。

『回復魔法系の方募集してますー！』だった。ヤムは槍使い（ランサー）だしアルファスは剣士。回復魔法なんて覚えてるはずがない。と言うか職業的に魔法覚えれない。上位の職業だと魔法剣士とかあるけど、そんな職業まだなれない。

『ヤムにアルファス？』

1人の女性アーチャーが話しかけてきた。名前は「牡丹」で友達登録している。確か同じクラスの神野美穂って言う光陵高校のアムステルスをしている女子が、ほぼ全員入っている＜ミネルヴァ＞のギルドのギルドマスターだ。

『なんでいるんだよ』

『色々と用事があったから。そういうあなた達は？』

「ヤムがこの街に用事があったので。。。」

『ふーん、そうなんだ』

『パーティー組んで無いの？』

『ううん。身内だけのパーティーなの。入る？』

「頼む」

無事にパーティーに入れた。アーチャーが1人に剣士が1人にランサーが1人に回復系魔法使いが2人で良い具合に前衛、中衛、後衛に分かれた。

『南の方から軍団が接近中だぞー！』

誰かが接近中の軍団を発見してくれたようだ。ティアムの街には南と北に出入り口の門がある。モンスターは門に集中して攻めて来るのでバランスよく守備につかないと、一つの門が敗れるとそこからモンスターが街の中へ入ってくる。街の中での戦闘はなるべく避けたい。

『北の門で迎撃しましょ』

「と、言ってるけど・・・」

『いいよー』

北の門に到着すると、門の上は大砲が並んでいて砲手が沢山いた。門の外には500人ぐらいが人達が居てパーティーを組んでいる。

『軍団接近中。近接戦闘の人前で中距離が真ん中に並んどけ。回復する方々は固まってパーティーの人達が死なないように回復してやんな』

歴戦の人の言葉で、近接戦闘で戦う剣士やランサーが前に出て、中距離から攻撃するアーチャーや魔法使いが真ん中に立った。回復系の人達はリザードマンの攻撃が届かないところからパーティーの人達の回復をする。

今から2時間ぐらいランダムでリザードマンの軍団がティアムの街にやってくる。

しかし、今回の軍団襲来には最後の軍団に最上級のモンスターが一匹だけ混ざっている。

それとく小旗御宛への誰かがティアムの街に訪れていた。

リザードマンの軍団襲来（後書き）

感想・誤字のご指摘お願いしますm（
）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9197y/>

アムステルスオンライン

2011年12月1日23時45分発行